SWCCグループ

2021年3月期　第2四半期
決算説明資料

Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

December 17, 2020

https://www.swcc.co.jp

本日の説明項目

Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

1. 2021/3期　第2四半期決算報告
通期業績計画

2.　中期経営計画
「Change SWCC2022」進捗

https://www.swcc.co.jp

2021/3期　第2四半期決算報告
通期業績計画

Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

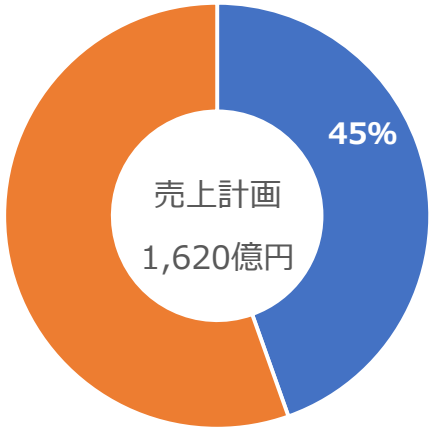
https://www.swcc.co.jp

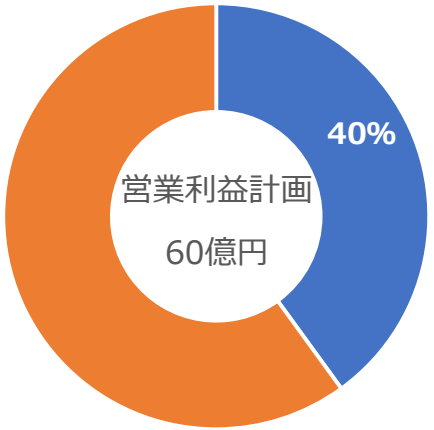
2021/3期　第2四半期決算総括

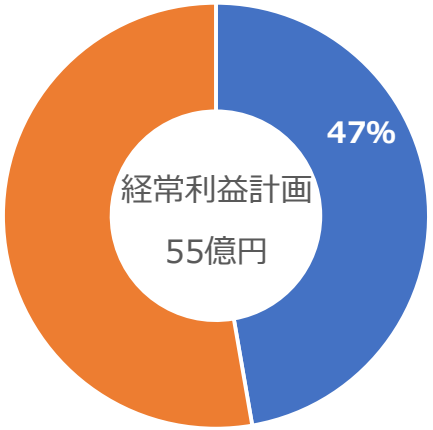
業績：2Qは回復基調も1Qの影響を受け、全事業で前年同期比減収・減益
上期業績は、ほぼ想定通り推移し下期回復基調

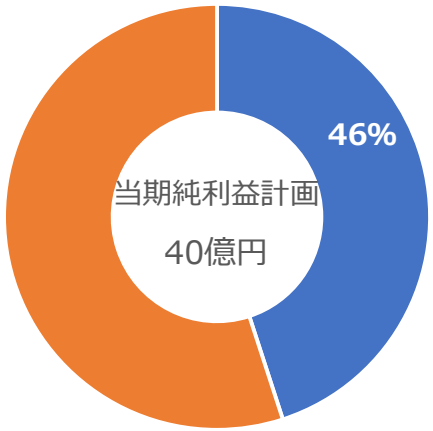
- **エネルギー・インフラ事業：**電力インフラ向け需要は想定通りに推移した。建設関連向け需要は2Qに入り徐々に持ち直したが、前年同期の需要には至らず。
- **通信・産業用デバイス事業：**通信インフラ向けは5G需要等により徐々に持ち直した。産業用デバイスは中国を中心に回復が見られた。
- **電装・コンポーネンツ事業：**コロナ禍による自動車メーカーの生産調整の影響や、電気機械向け汎用巻線の需要低迷が継続した。

2Q進捗率（売上高/営業利益/経常利益/四半期純利益）



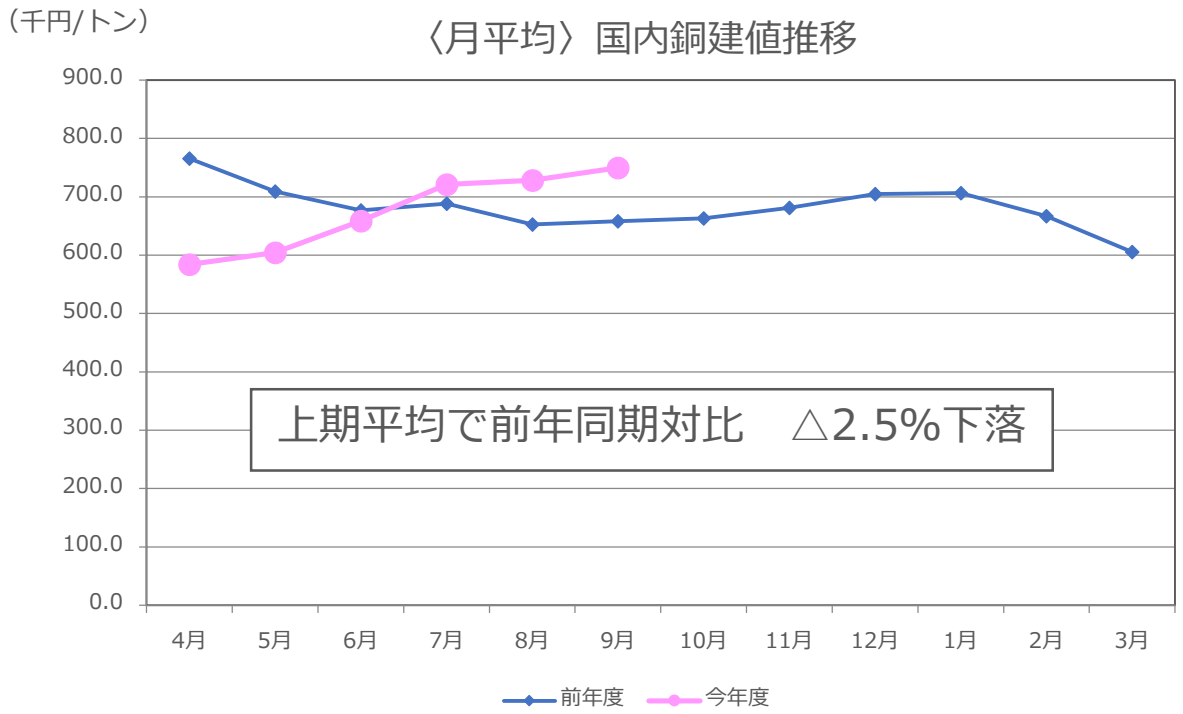




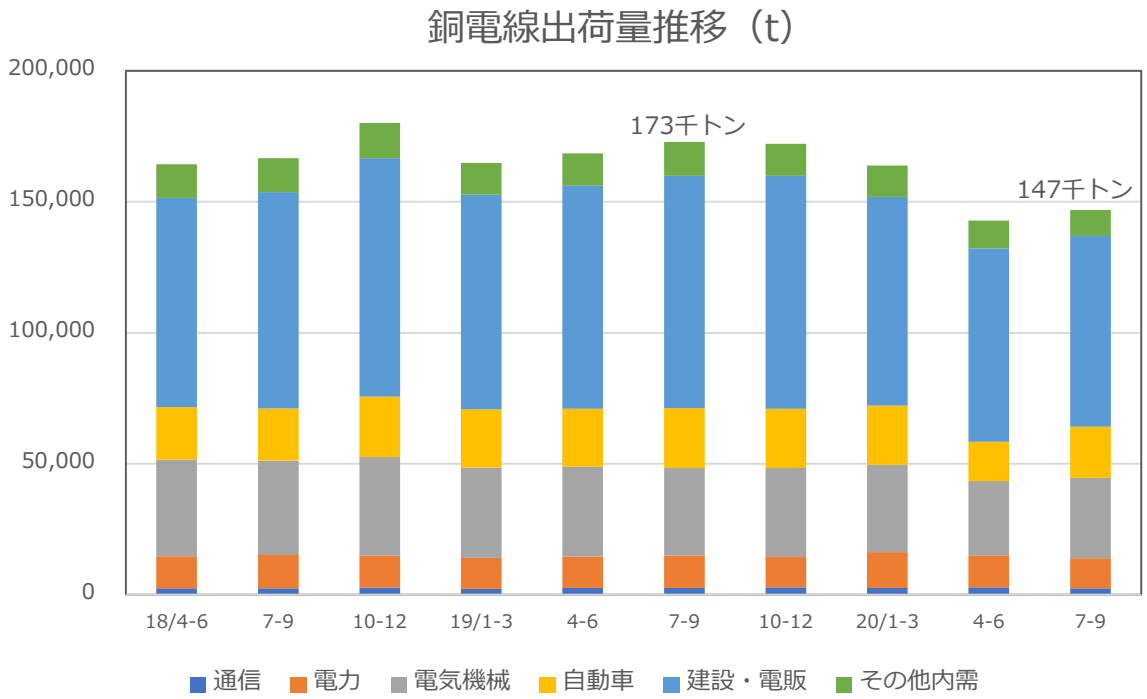


マクロ環境

- 国内銅価格（円ベース）は、中国の景気回復もあり上昇傾向であるが、上期平均では2.5%の下落。
- 国内の銅電線出荷量は、建設・電販を中心に大きく減少。(前年同期比△15%)
  （9/24：日本電線工業会は、2020年度銅電線需要見通しを前年度比△10.8%へ修正）



出所：社団）日本電線工業会データより



出所：社団）日本電線工業会データより

新型コロナウイルス対応

国内では地域ごとに5段階での危機管理レベルを設定
「職場における新たな業務習慣ガイドライン」を制定

- 5段階の危機管理レベル対応の明示
- グループ全社連絡網の活用（緊急連絡アプリで対応）
- 全従業員がアクセスできるWeb会議システム導入
- 時差通勤、在宅勤務の推進（本社、営業所の50%在宅勤務）
- 会議時間短縮の取り組み等による効率化推進
- 使用備品、会議室の消毒徹底など新マナーの導入
- 基本的な感染予防対策の再確認
- 感染者の差別禁止、個人情報保護
- 本ガイドラインに関する教育の実施　　等

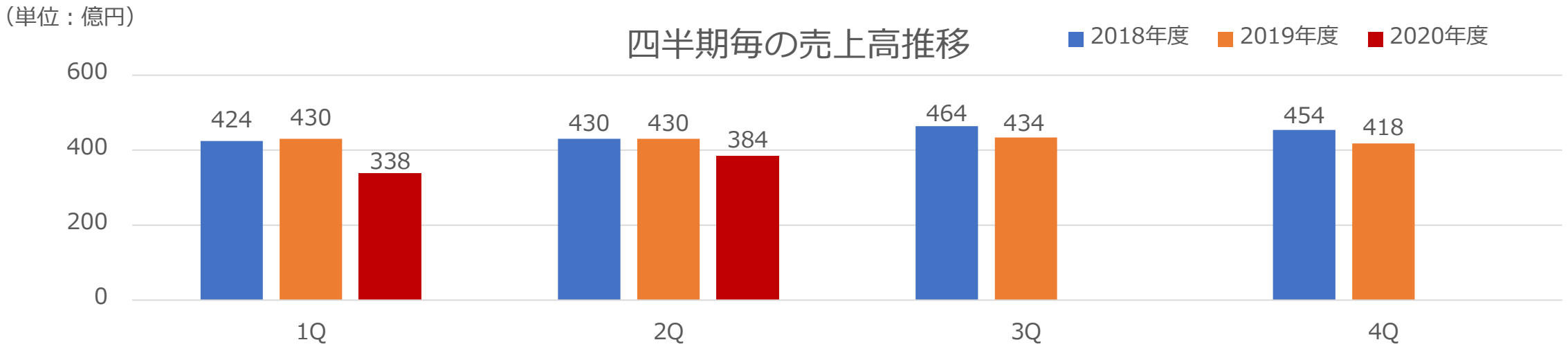
2Q 連結損益計算書

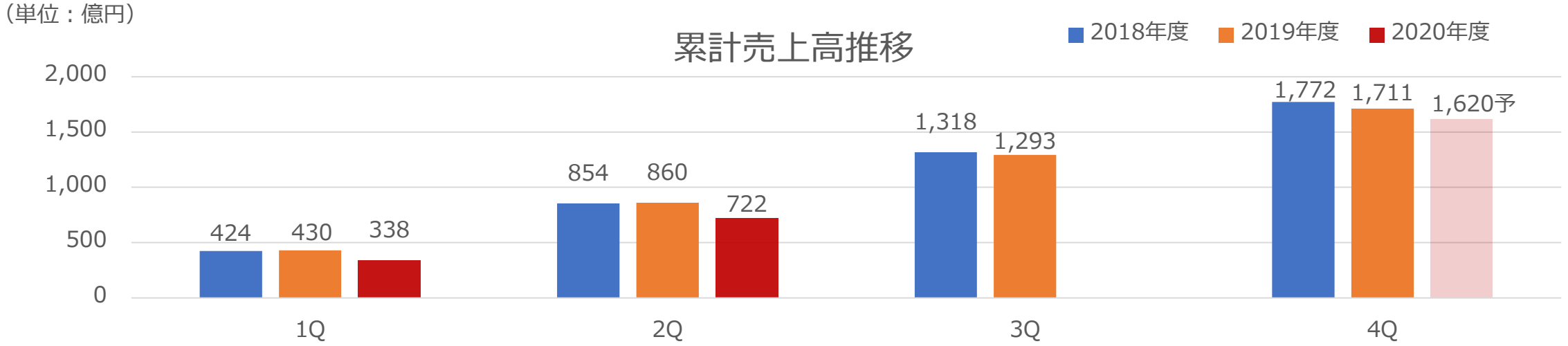
- 売上高は前年同期比△16.0%、営業利益は△43.5%。
  コロナ禍の影響による急激な需要減により減収・減益、下期回復基調へ。
- 構造改革の効果もあり、2Q累計では2018年度を超える利益レベルを確保。

（単位：億円）

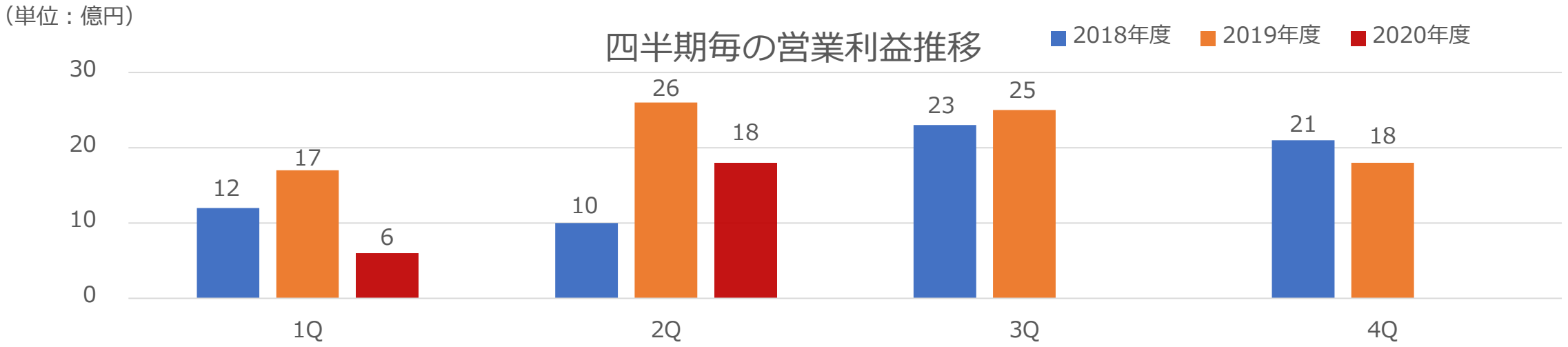
	2018年度 2Q実績	2019年度 2Q実績	2020年度 2Q実績	構成 %	前年同期比 %
売上高	854	860	722	–	△16.0%
売上総利益	98	117	93	12.9%	△20.0%
営業利益	23	43	24	3.3%	△43.5%
経常利益	19	40	26	3.6%	△34.4%
親会社株主に帰属する四半期純利益	13	29	18	2.5%	△36.2%

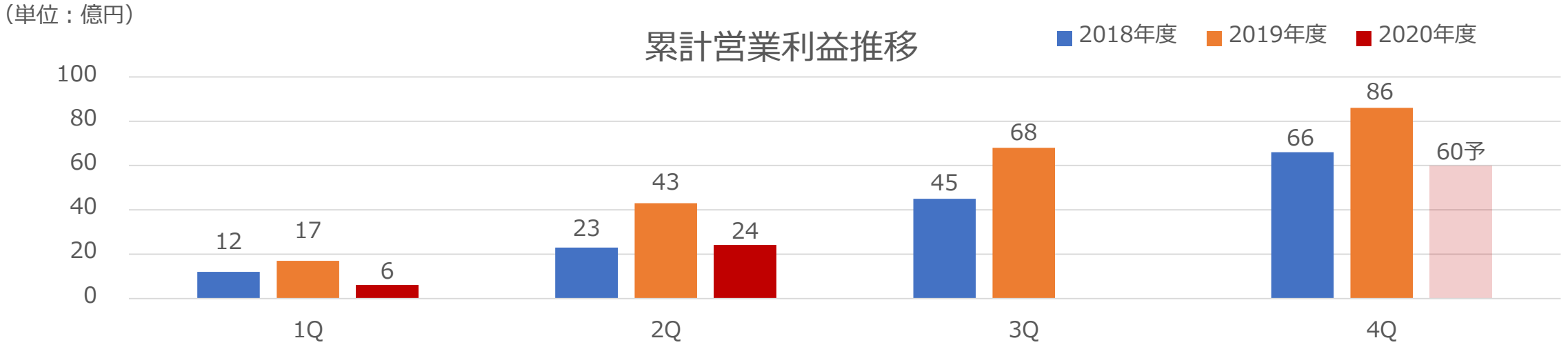
四半期業績推移（売上高：過去3期比較）





四半期業績推移（営業利益：過去3期比較）





セグメント情報

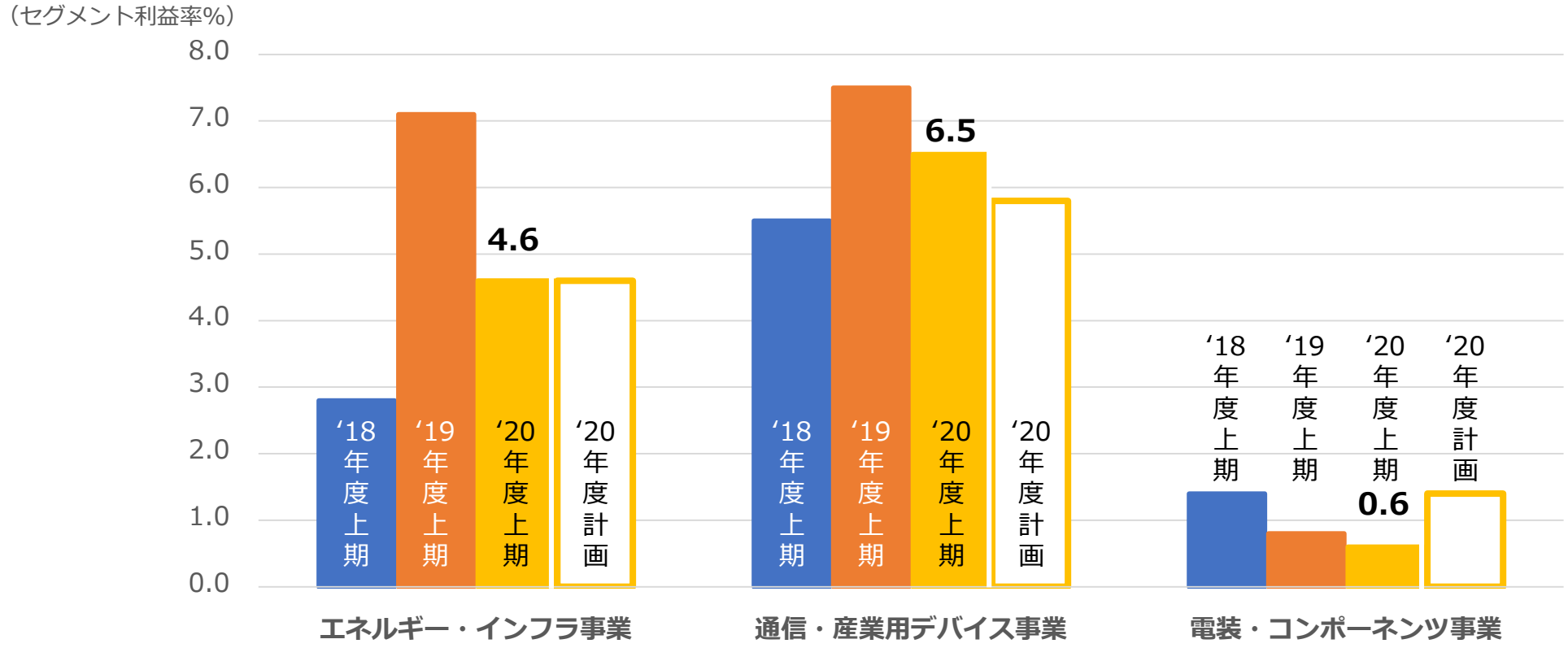
- コロナ禍の影響を受け、1Qで大幅な減収・減益となったが、電装・コンポーネンツを除き、2Qは回復基調へ。下期での回復を見込む。

（単位：億円）

	2018年度 2Q 実績		2019年度 2Q 実績		2020年度 2Q 実績	
	売上高	営業利益（利益率%）	売上高	営業利益（利益率%）	売上高	営業利益（利益率%）
エネルギー・インフラ	403	11（2.8%）	435	31（7.1%）	388	18（4.6%）
通信・産業用デバイス	160	9（5.5%）	153	11（7.5%）	127	8（6.5%）
電装・コンポーネンツ	265	4（1.4%）	248	2（0.8%）	183	1（0.6%）
その他（内新規事業）	25（15）	△1（△1）	24（14）	△2（△1）	23（16）	△3（△0）
合　計	854	23（2.7%）	860	43（5.0%）	722	24（3.3%）

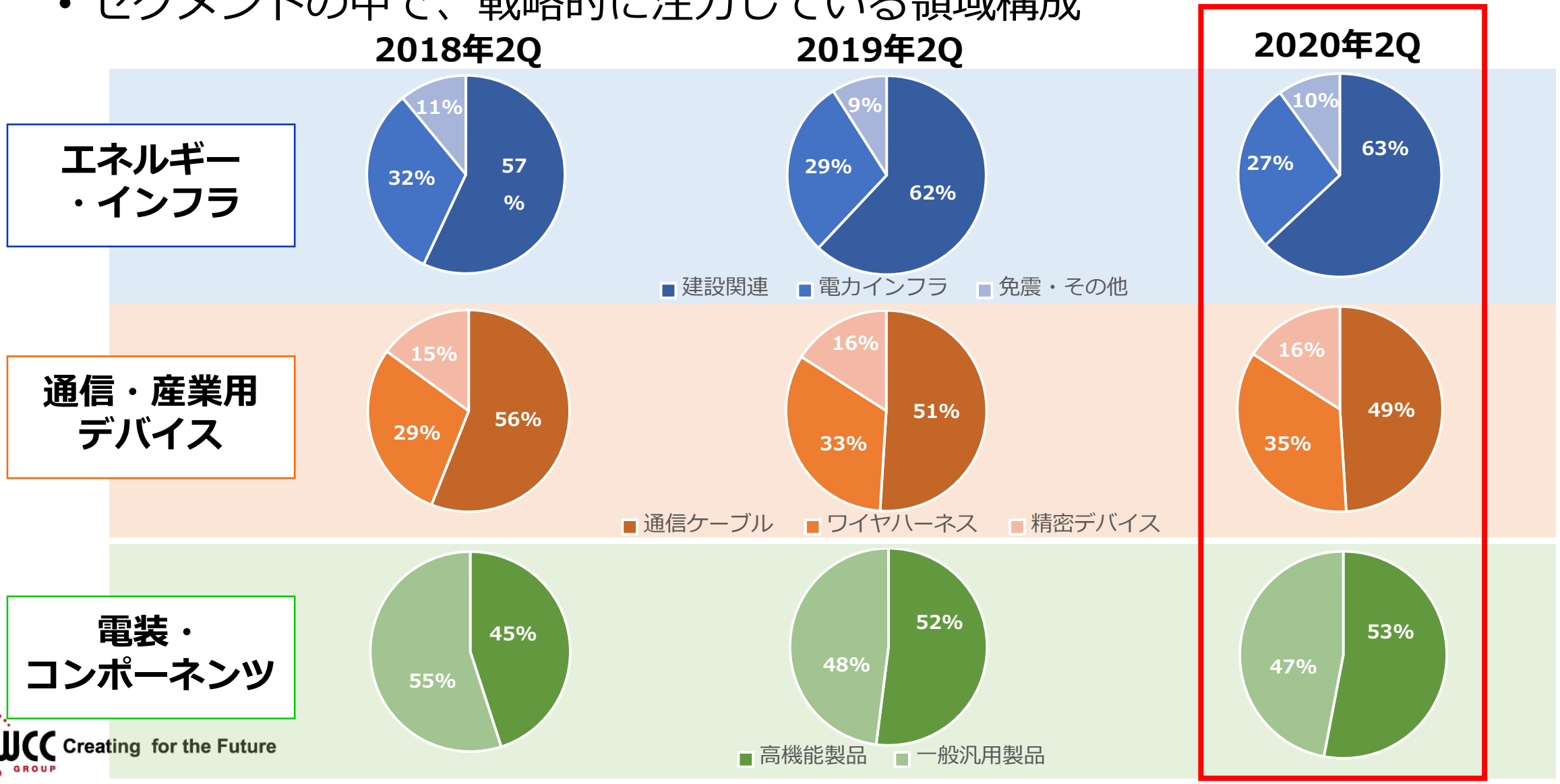
セグメント情報（セグメント利益率推移）

- 当社は、継続的な構造改革の推進により、セグメント毎の収益力改善に向け、構造改革を進めております。



セグメント内　売上高構成比

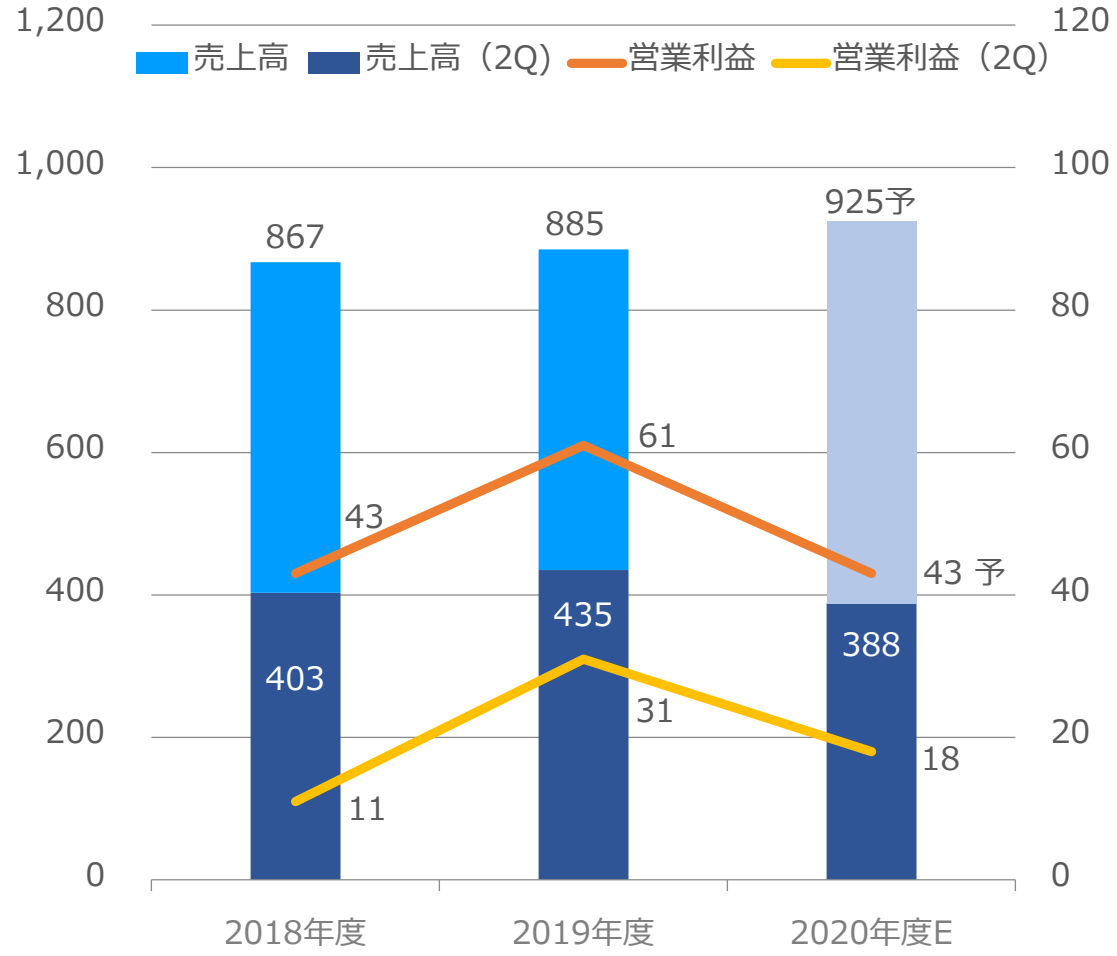
- セグメントの中で、戦略的に注力している領域構成



SWCC GROUP Creating for the Future

エネルギー・インフラ事業　実績＆業績計画

（単位：億円）



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

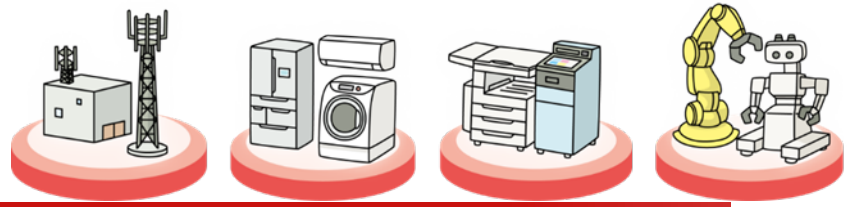
第2四半期実績	
◆建設 汎用電線、 免震装置、制振・防振	2Qに入り建設工事案件の需要が回復基調も前年同期に届かず。
◆電力インフラ 電力ケーブル、工事、 電力機器部品(SICONEX®)	期初に想定した通りに推移。

通期見通し

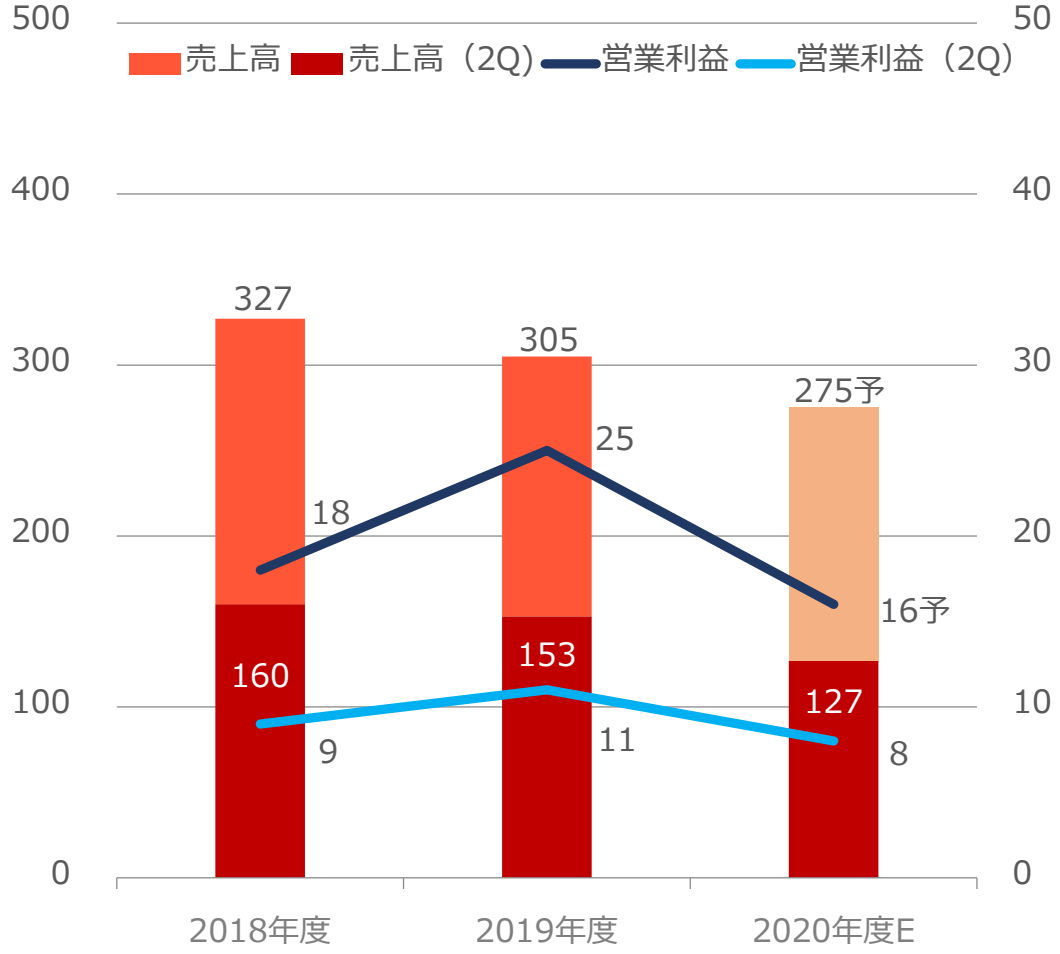
電力インフラ需要は堅調。コロナ禍の影響で設備投資や住宅着工の需要は落ちるも最悪期は脱し、下期に向けて回復を想定。

売上高は925億円、営業利益は43億円を計画。
営業利益率：4.6%（前年度6.9%）

通信・産業用デバイス事業　実績＆業績計画



（単位：億円）



※2019年度3Qより一部セグメントを見直しております。

第2四半期実績	
◆建設 メタルケーブル、光ケーブル	5Gサービス向け等の通信インフラ増強に伴う需要があったものの、前年同期比では需要が低迷。
◆通信インフラ LANケーブル、光ケーブル	
◆家電・産業機器 ワイヤハーネス	サプライチェーンの混乱は収束し、中国を中心に需要が回復したものの、前年同期比では需要が低迷。
◆複写機 精密デバイス	

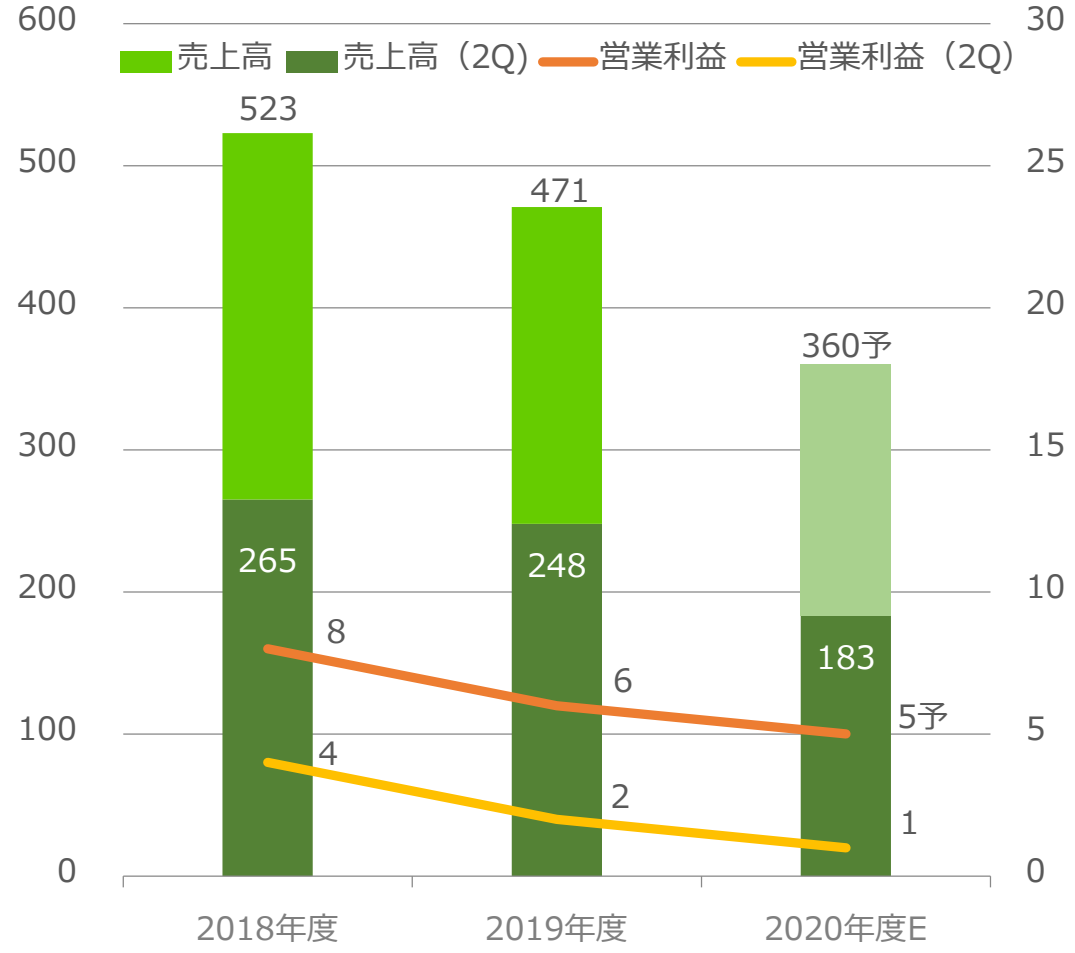
通期見通し

国内通信インフラ増強、GIGAスクール等の需要を取り込む。
精密デバイスはコロナ禍によるサプライチェーンの変化に対応した構造改革を推進中。

売上高275億円、営業利益16億円を計画。
営業利益率：5.8%（前年度8.2%）

電装・コンポーネンツ事業　実績＆業績計画

（単位：億円）



第2四半期実績	
◆自動車 無酸素銅MiDIP®、 銅合金、高機能巻線	コロナ禍による自動車メーカーの生産調整が影響し、需要が低迷。
◆電気機械 他 汎用巻線	設備投資関連等の電気機械向け汎用巻線の需要低迷が継続。

通期見通し

汎用品から高付加価値品主体の事業へ変革を推進中。
下期以降の市場回復と環境対応車率増加を見込み、
無酸素銅MiDIP®・銅合金・車載用巻線の増産により
収益性の改善を目指す。

売上高は360億円、営業利益5億円を計画。
営業利益率：1.4%（前年度1.2%）

貸借対照表（前期末比較）

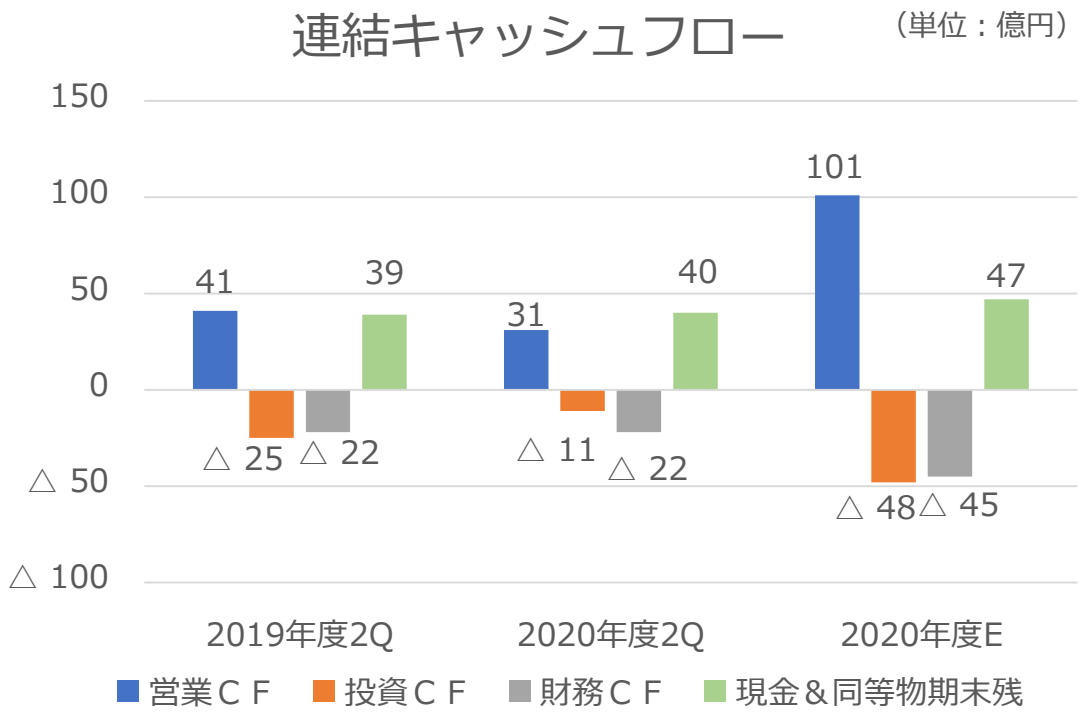
・自己資本比率は34.3%（前期末比2.0ポイントアップ）

（単位：億円）

	20/3/31	20/9/30	増減
現金・預金	43	40	△3
受取手形・売掛金	412	382	△30
棚卸資産	217	212	△5
その他	45	52	+7
流動資産　計	717	686	△31
有形固定資産	399	401	+2
無形固定資産	14	13	△1
投資その他の資産	94	96	+2
固定資産　計	508	510	+2
資産　合計	1,225	1,196	△29

	20/3/31	20/9/30	増減
支払手形・買掛金	186	182	△4
短期借入金・社債	295	291	△4
その他	157	133	△23
流動負債　計	638	607	△31
長期借入金・社債	119	106	△12
その他	68	68	△1
固定負債　計	187	174	△13
負債　合計	825	781	△44
資本金	242	242	0
資本剰余金	57	57	0
利益剰余金	62	76	+14
その他	38	40	+2
純資産　合計	400	416	+16
負債・純資産　合計	1,225	1,196	△29

キャッシュフローと投資方針



（億円）	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 計画
投資	35	53	49
減価償却費	30	31	38

■2Qのフリーキャッシュフロー

プラス20億円

■キャッシュフロー（ＣＦ）計画

営業ＣＦ：減益予想も運転資金減もあり、2019年度を上回る見込み。
投資ＣＦ：前年度を上回る設備投資を実施
財務ＣＦ：引き続き有利子負債の返済による財務体質の改善を目指す。

■投資方針

2020年度の設備投資は、中期経営計画の施策を着実に進める。

・国内生産体制の強靭化投資
・新製品開発と合理化、省力化投資
・ワイヤハーネスを中心とした海外拠点拡大投資

市場環境 今後の見通し

- 自動車向けは、下期より回復基調に向かう。

	市場環境		施策対応
エネルギー・インフラ	建設	→	・需要変動への生産体制対応 ・再生可能エネルギーの系統連系ビジネスモデルの強化 ・制振制音事業の構造改革推進
	電力インフラ	→	
	免震・その他	→	
通信・産業用デバイス	通信ケーブル	↗	・5G立上がり、GIGAスクール構想等の需要捕捉 ・新たなサプライチェーンと地産地消(中国、東南アジア)への構造改革 ・ワイヤハーネスの新体制始動と海外投資の強化
	ワイヤハーネス	→	
	精密デバイス(複写機用)	→	
電装・コンポーネンツ	高機能製品(自動車等)	↗	・自動車産業の構造変化、環境配慮型自動車割合増加に向けて生産体制を増強
	一般汎用製品	→	
その他（内新規事業）	IoTソリューション	→	・テレワーク対応システム商材増強 ・遠隔医療やスマートワーク化の加速によるメディカル向け部材、システム・サービスの需要増加に対応した拡販強化
	インダストリ(医療等)	→	

2021/3期　通期業績予想

・5月15日公表の通期業績予想を据え置く。

（単位：億円）

	2019年度 実績	構成 %	2020年度 計画	構成 %
売上高	1,711	–	1,620	–
売上総利益	237	13.9%	–	–
営業利益	86	5.0%	60	3.7%
経常利益	79	4.6%	55	3.4%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	55	3.2%	40	2.5%
配当/配当性向	15円	8.2%	15円	11.2%

ESGの取り組み（統合報告書）

Environment(環境)

・環境計画「Green Plan 2050」の策定
・日本政策投資銀行「DBJ環境格付」で最高ランク取得

Social(社会)

・子育てサポート企業「くるみん」の取得と
　「健康経営優良法人2020(大規模法人部門)」の認定
・従業員の選抜教育、リベラルアーツ教育の充実化
・新型コロナウイルス感染予防対策の徹底とWithコロナ
　における「新しい業務習慣ガイドライン」の制定
・カワスイ川崎水族館オフィシャルサポーターに登録

Governance(ガバナンス)

・指名・報酬・監査等委員会の設置による監督機能の強化
・譲渡制限付株式報酬制度の導入
・リスクマネジメント体制の再構築

2020年9月30日
「昭和電線グループレポート 統合報告書2020」を発行いたしました。
https://www.swcc.co.jp/environment/download/index.html

昭和電線グループは
持続可能な開発目標
(SDGs)を支援する
活動に取り組んでいます。

昭和電線の環境計画　『Green Plan 2050』

持続可能な社会へ

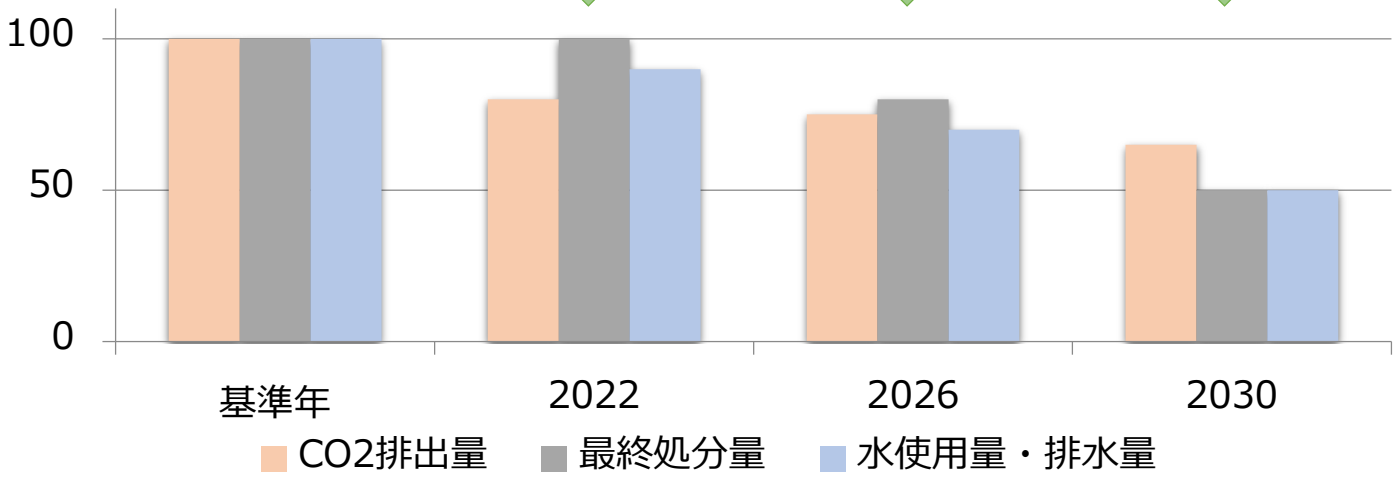
パリ協定、SDGs への対応と未来の世代へ

2050年　環境負荷ゼロ、カーボンニュートラルを目指す

・第7次ボランタリープラン（2021～2025）の策定と実施
・1990年から継続する環境貢献の活動をさらに加速

・太陽光発電設備の活用
・CO_2クレジットの活用

2022　2026　2030



環境指標の推移（基準年を100とする）

長期ビジョン（2050）

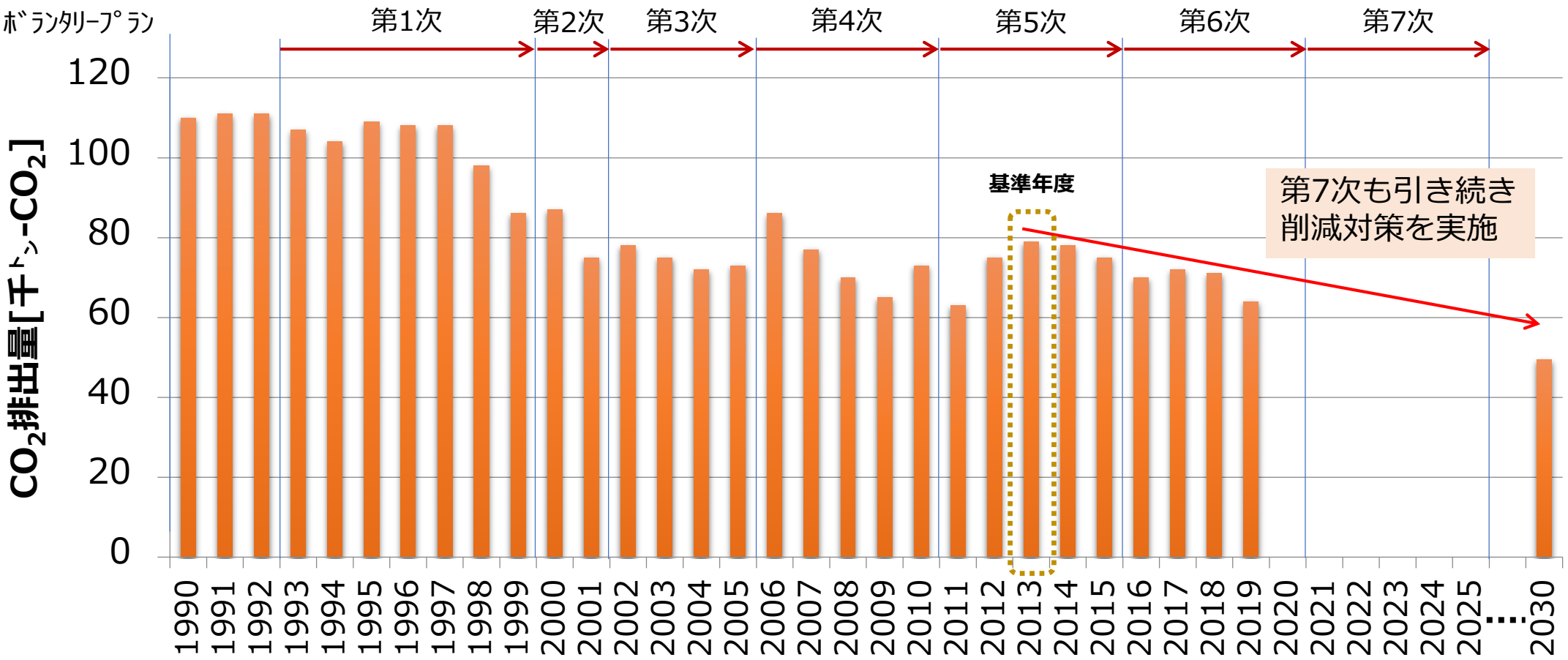
地球温暖化防止
・CO2を排出しない製品　または カーボンニュートラルな製品の実現 ・環境課題解決製品の創出
資源有効活用
・資源の持続可能な利用の推進 ・最終処分量（埋立量）０の実現
水資源の有効活用
・水資源の持続可能な利用の推進

SWCC GROUP Creating for the Future

環境目標『地球温暖化防止』

CO_2排出量削減の変遷

2030年に基準年（2013年）対比30%減を目指す施策を策定中



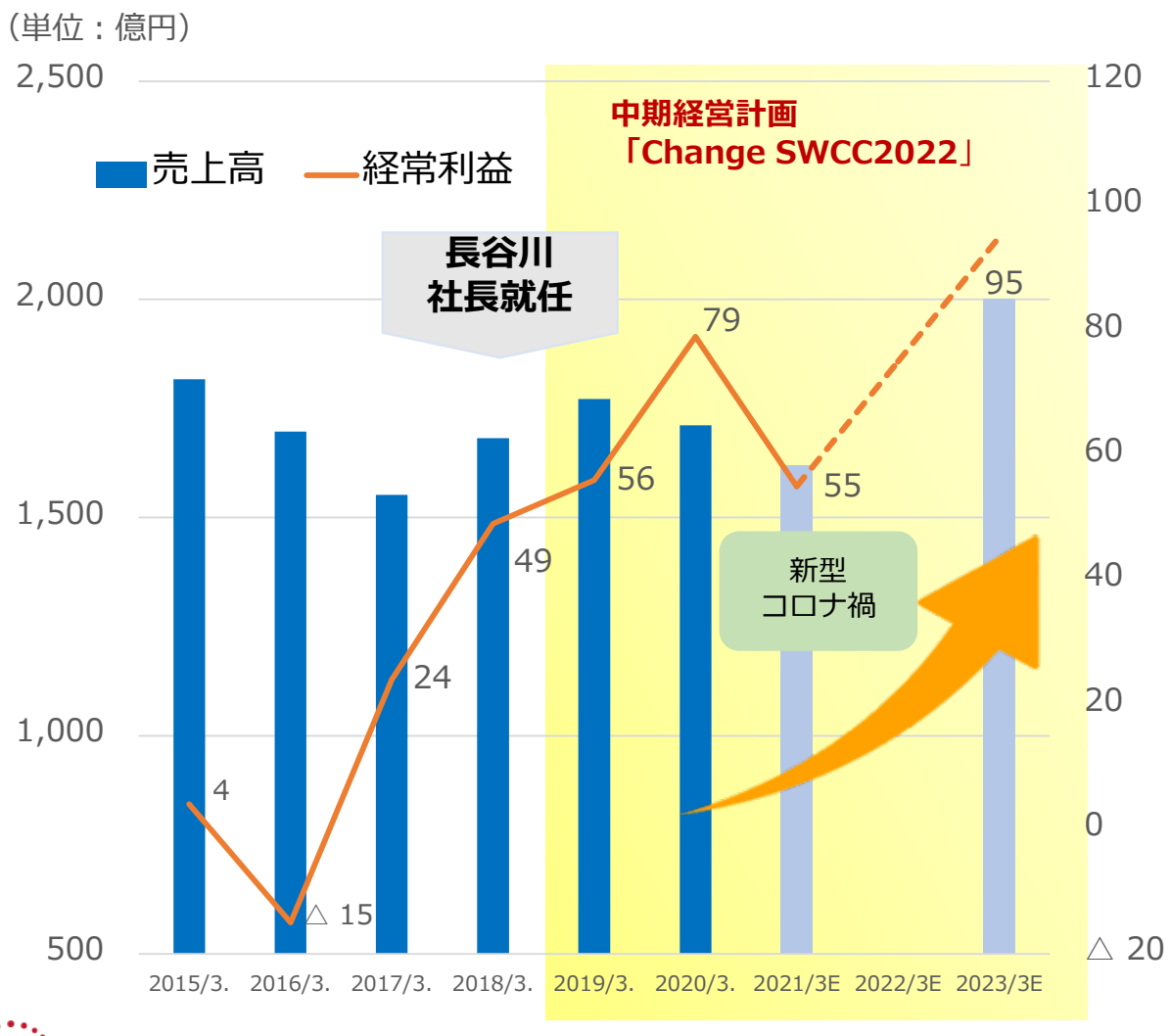
中期経営計画
「Change SWCC2022」進捗

Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

https://www.swcc.co.jp

継続した構造改革の推進



■2017年12月:本店を港区虎ノ門から川崎市川崎区に移転
■2018年　6月:社長に**長谷川が就任**。
中期経営計画「Change SWCC2022」推進
2018年12月:指名委員会・報酬委員会を設置
■2019年　4月:コーポレートガバナンス体制の見直し
事業セグメント変更、執行役員制度の強化
2019年　6月:監査等委員会設置会社へ移行
2019年10月:昭和電線ユニマックを完全子会社化
2019年11月:**中計のローリングプラン公表**
■2020年　4月:昭和電線ユニマックが多摩川電線を吸収合併
2020年　4月:古河電気工業とのJV販社SFCC営業開始
2020年　4月:人事制度改革（新人事制度導入）
2020年　6月:ゴム線事業売却・譲渡契約の締結
2020年　9月:ダイジ解散（岡山・山形工場閉鎖）
■2021年　4月:制振制音事業を昭和サイエンスに集約
2021年　7月:ロジス・ワークスが昭和リサイクルを吸収合併
2021年12月:通信ケーブル拠点再編による青森昭和電線解散
■2022年　3月:通信ケーブル事業構造改革完了
2022年　3月:昭和電線ケーブルシステム 海老名工場売却

ROIC経営に基づく基盤事業の構造改革

効率化・収益化のための構造改革を加速

新会社設立	**古河電気工業とのJV販社 SFCC営業開始** (2020年4月)	建設・電販市場向け汎用電線の シェアup、販売業務の効率化	**売上高** ↑
組織再編 (合併・分割)	**昭和電線ユニマックが 多摩川電線を吸収合併** (2020年4月)	ガバナンス体制の強化 巻線事業の収益力強化	**ROIC 営業利益率** ↑↑
	ゴム線事業 売却・譲渡契約の締結 (2020年6月)	経営資源を高収益事業へシフト	**ROIC 売上高** ↑↓
	制振制音事業を 昭和サイエンスに集約 (2021年4月予定)	振動制御・制振制音事業を統合し、 技術開発・製造販売を合理化	**ROIC 営業利益率** ↑↑
	ロジス・ワークスが 昭和リサイクルを吸収合併 (2021年7月予定)	電線の運搬・回収・リサイクルによる 循環型ビジネスでの収益力強化	**ROIC 営業利益率** ↑↑
	通信ケーブル事業 拠点再編による構造改革 (2022年3月予定)	製造・開発拠点を集約による 効率化と収益力強化	**ROIC 営業利益率** ↑↑

脱炭素社会に貢献するSWCCグループの製品・技術

SWCCグループは脱炭素社会の実現に向けて、様々な製品・技術で貢献してまいります

省エネ家電

・家電用ワイヤハーネス　他

環境対応車

・MiDIP®（無酸素銅）
・高機能巻線、ヒータ線
・車載用アルミケーブル　他

再生可能エネルギー

・SICONEX®
・連系工事
・保守メンテナンス　他

SWCC GROUP Creating for the Future

スマート物流

・最適車両の活用
・配送の効率化　他

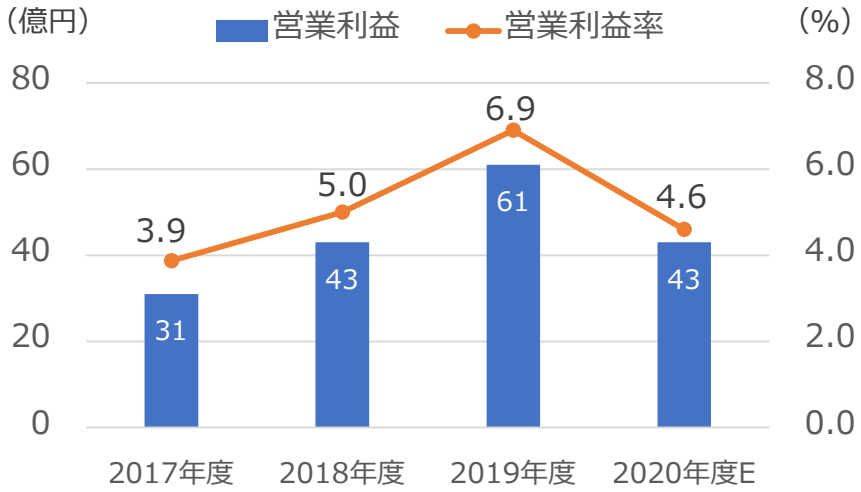
超電導ケーブルシステム

・三相同軸ケーブル
・冷却システム
・系統監視技術　他

スマートシティー、水素利用、CASEなど新しい社会に貢献

エネルギー・インフラ事業

【目指す姿】
国内向けインフラ事業（電力・建設用電線・免震）にてNo.1のトータルサービスを提供し続ける



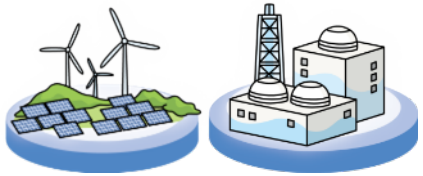
【電力インフラ】
当社独自の電力機器部品「SICONEX®」を中心に、
ケーブル・工事・部材のソリューション提供により
国土強靭化対策、再生可能エネルギー連系強化需要の取込み。
施工力強化と新技術により事業拡大。

【建設用汎用電線】
古河電気工業との合弁販社であるSFCCの設立により、
シェアアップと効率化による収益力強化。

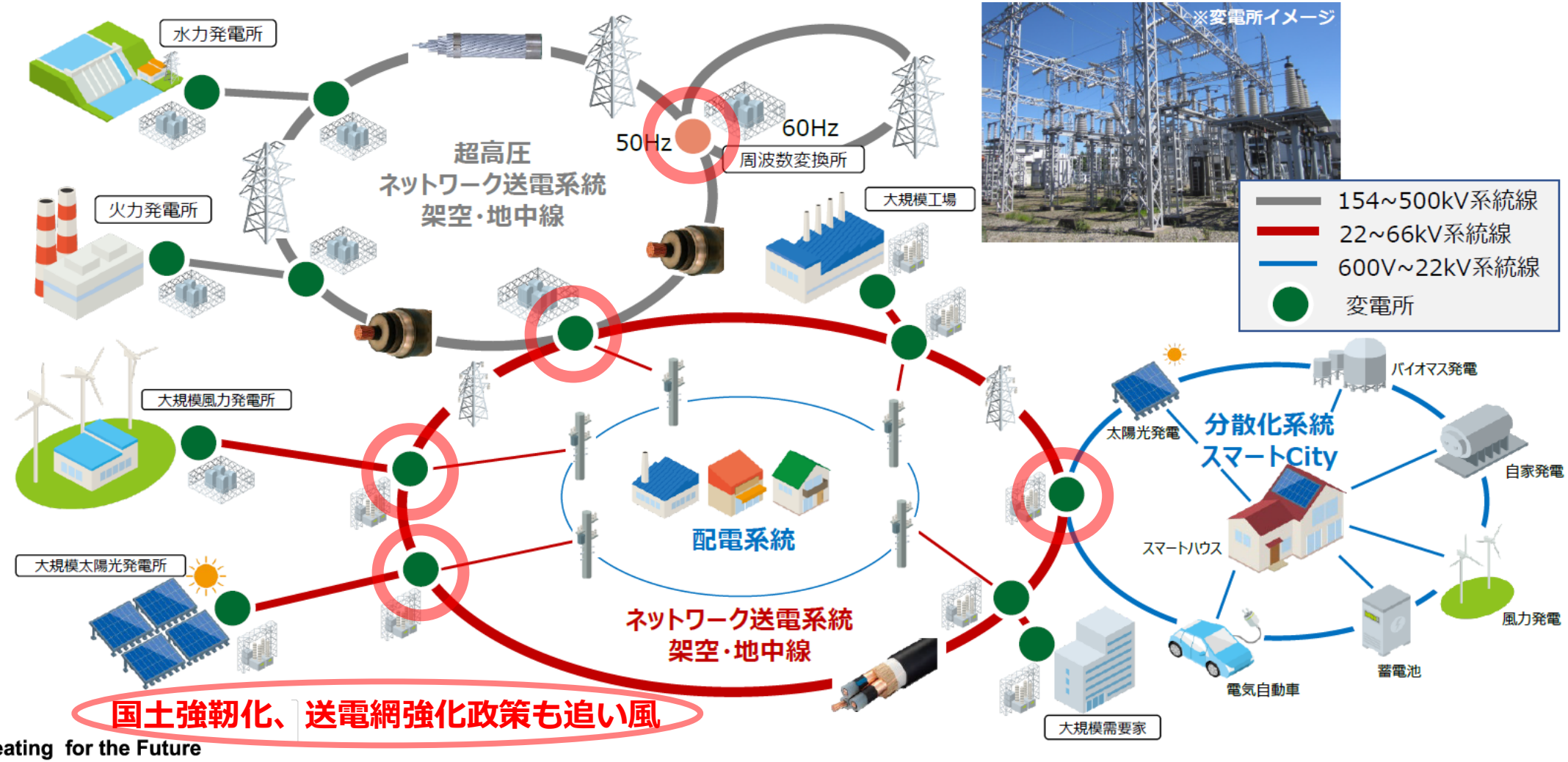
【免震】
パートナーシップ強化による競争力向上と免震化率向上
のための普及活動推進。

SICONEX

電力インフラのビジネスモデル



■従来の超高圧ケーブルの長さを必要とするビジネスから、当社独自製品のSICONEX®を活用した
変電所や再生可能エネルギーの系統連携のためのケーブル・部材・工事のソリューションビジネスへ転換



国土強靭化、送電網強化政策も追い風

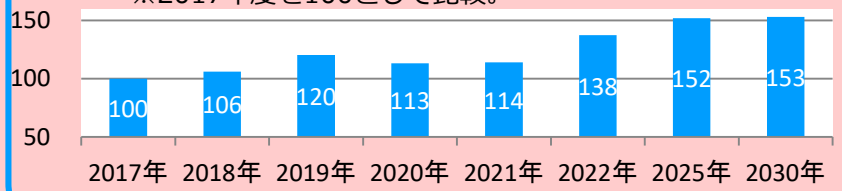
電力インフラでのSICONEXシェア拡大

1985年～2008年	2011年	2012年～2018、2019年	2020年～2025年
リーマンショック	東日本大震災	電力自由化・発送電分離　ブラックアウト・自然災害　国土強靭化　リニューアル	分散型エネルギー・スマートCity

電力市場トレンド

電力関連需要

※2017年度を100として比較。



出所：各種データから、当社予測により作成

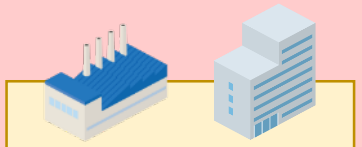
SICONEX®
売上高成長計画※

2017年度 **100**

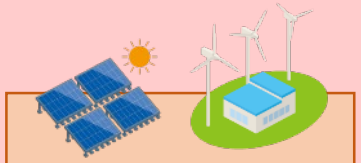
2022年度 **120**

2025年度 **130**

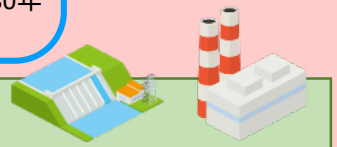
当社シェア



66・77kV機器



154kV機器



275kV機器

●民間企業・JR 適用開始

●民間企業適用開始

●電力会社適用開始

●電力会社 超高圧電力適用開始

スマートグリッド・再エネ向け部品投入

簡易施工ジョイント・施工ロボット投入

・工期短縮　・コンパクト化　・価格競争力	・耐震性　・安全性　・BCP対応　・緊急復旧	・超高圧工期短縮　・変電所のコストダウン	・自動化　・省力化　・スキルレス　・診断技術

※ 2017年度の売上高実績を100とした時

超電導ケーブル実用化への取組み

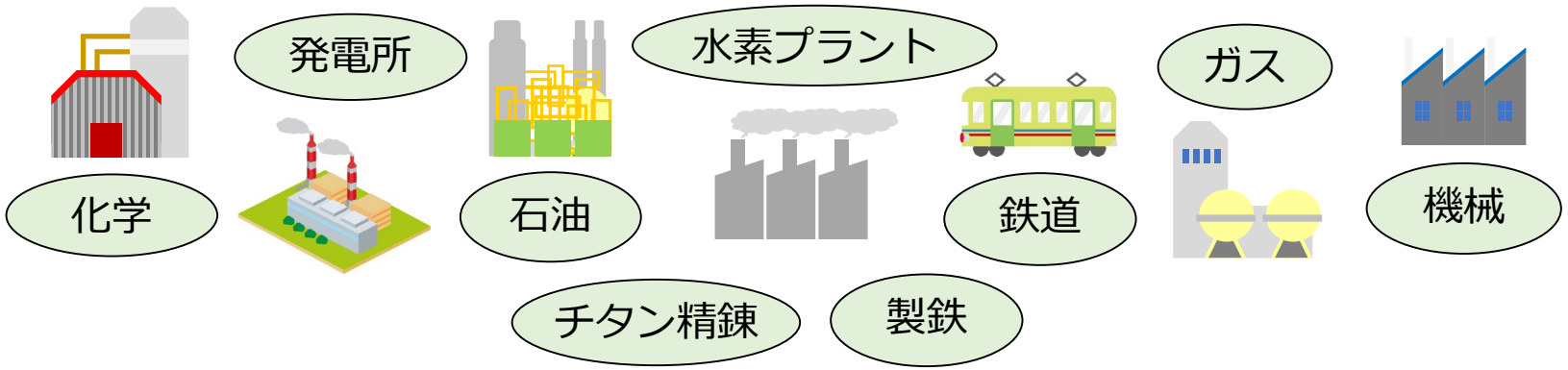
BASFジャパン（株）戸塚工場で超電導ケーブルシステムの実証試験を開始（NEDO　戦略的省エネ事業）

送電ロスを95%以上軽減し
省エネルギーを実現

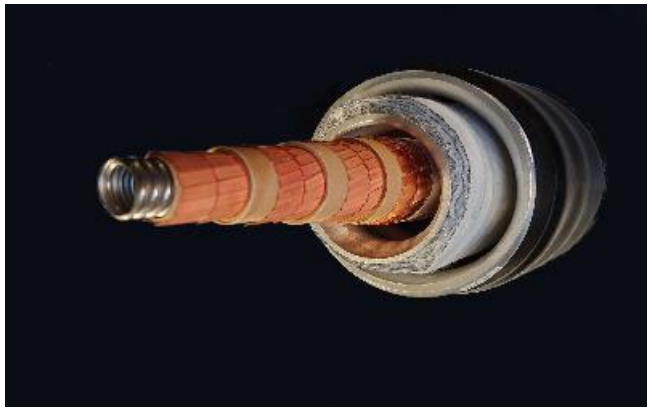
冷却時に排気する窒素ガスは
プラントに戻して利用

資源を無駄にしない省エネルギーシステムの構築

ターゲット市場

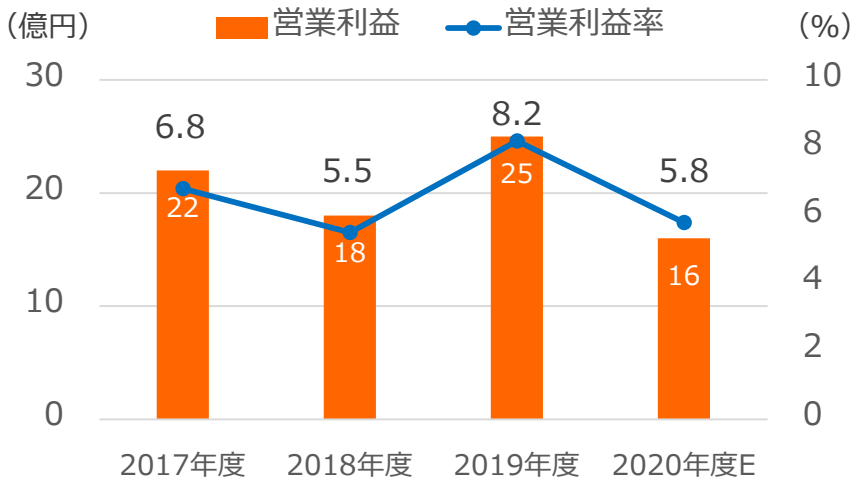


三相同軸電導ケーブル



通信・産業用デバイス事業

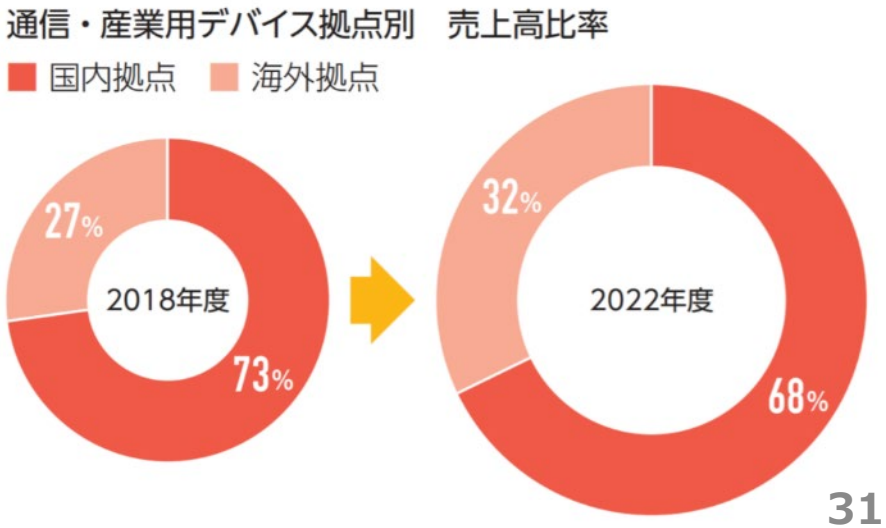
【目指す姿】
5G、インダストリー4.0によりグローバルに成長し続ける情報通信市場において、顧客ニーズに合致した製品提供で信頼されるベストパートナーとなる



【通信ケーブル】
国内の5Gサービス開始、DX促進需要に対応したLANケーブル等の高付加価値製品の増産と拡販。

【ワイヤハーネス】
グループでの拠点効率化推進中。中国の嘉興昭和機電有限公司の工場新設とともに開発・製造拠点として拡大準備中。

【精密デバイス】
パートナー企業との連携強化と国内製造をベトナムの製造拠点に集約・拡大。



ローラブルリボンe-Ribbon®製品の展開

■グローバルでデータセンター投資継続

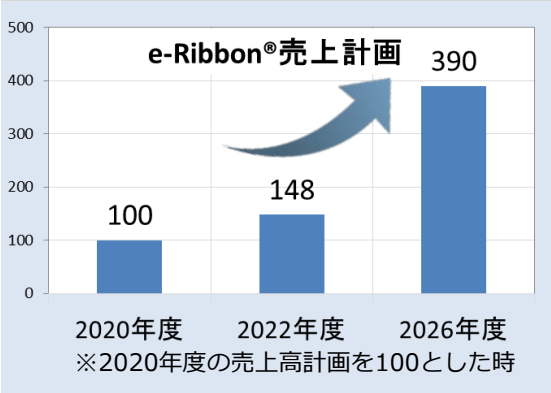
テレワーク/在宅勤務の普及やeコマースの拡大。
ゲーム・ビデオストリーミングの増加により
コロナ禍でも投資は継続。

細径高密度光ケーブルを実現する

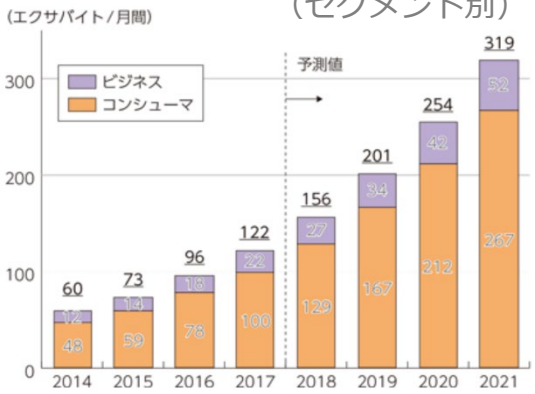
e-Ribbon®の販売を強化

e-Ribbon®の強み

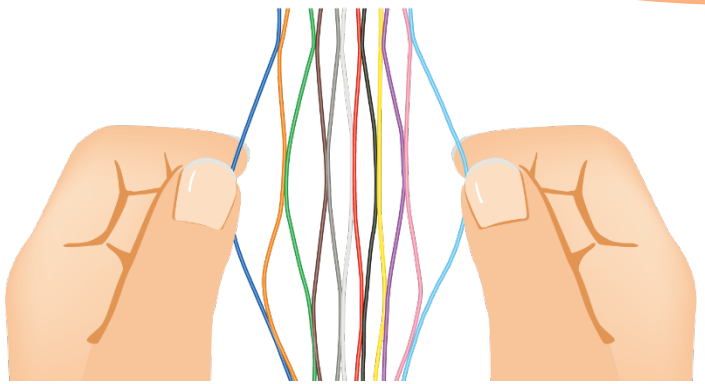
- 豊富なラインナップ
- 強いロバスト性
- 容易な単心分離性



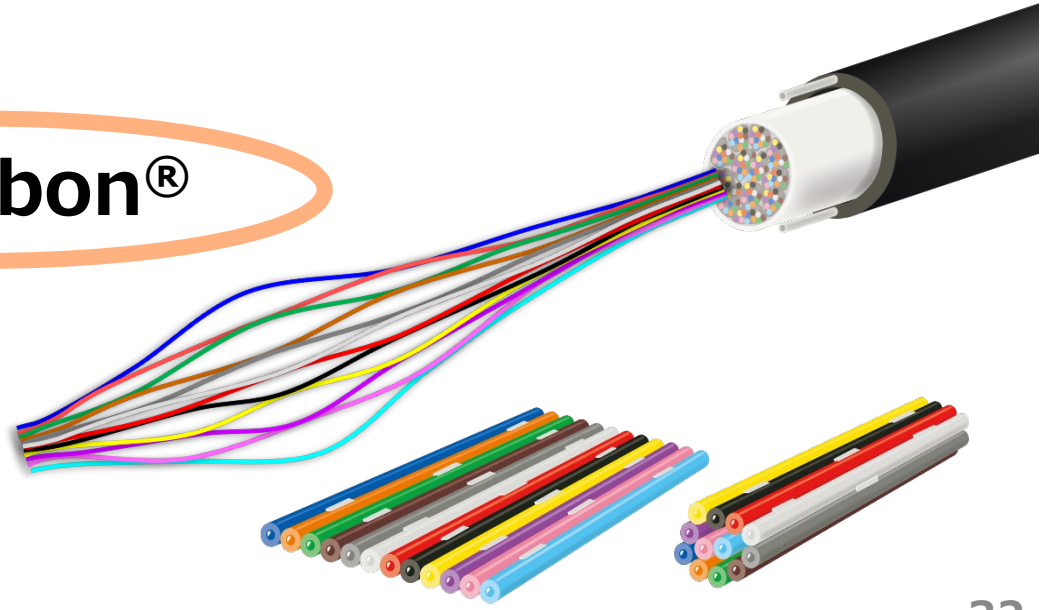
世界のトラフィックの推移及び予測
（セグメント別）



出所：総務省「令和元年版 情報通信白書」



e-Ribbon®



SWCC GROUP Creating for the Future

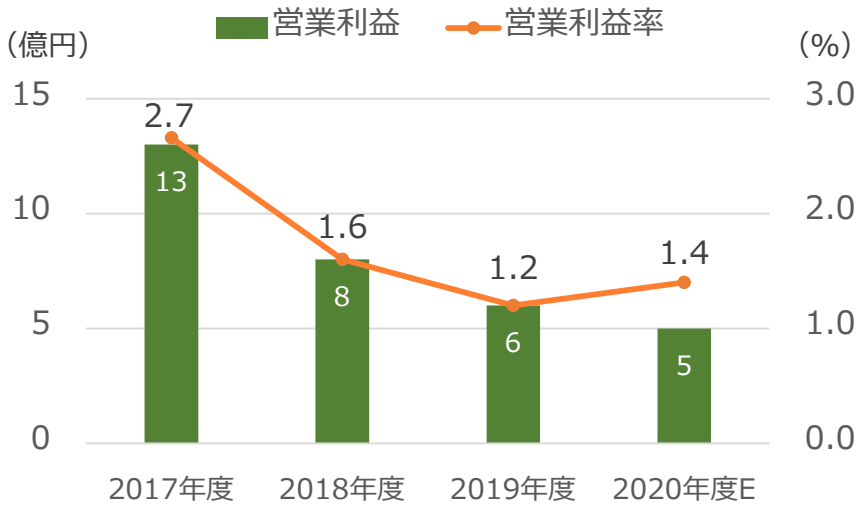
電装・コンポーネンツ事業

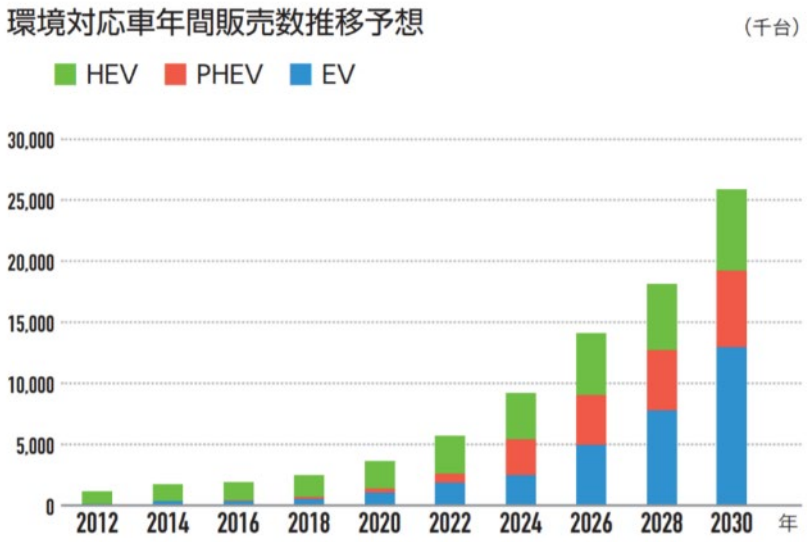
【目指す姿】
線材・巻線・加工の相乗効果による新たな利益創出

【高機能線材】
EV化の急速な立ち上げ需要に対応する
高機能無酸素銅MiDIP®、車載用巻線の製造体制の強化。

【銅合金】
国内の開発・製造拠点を宮城県に集約。
モビリティ向けヒータ線や医療用リード線等の
新製品開発の加速と事業拡大を推進。

【汎用巻線】
国内巻線事業の再編による効率化と
海外パートナーとの協業によるグローバル展開の推進。





出所：各種データから、当社予測により作成

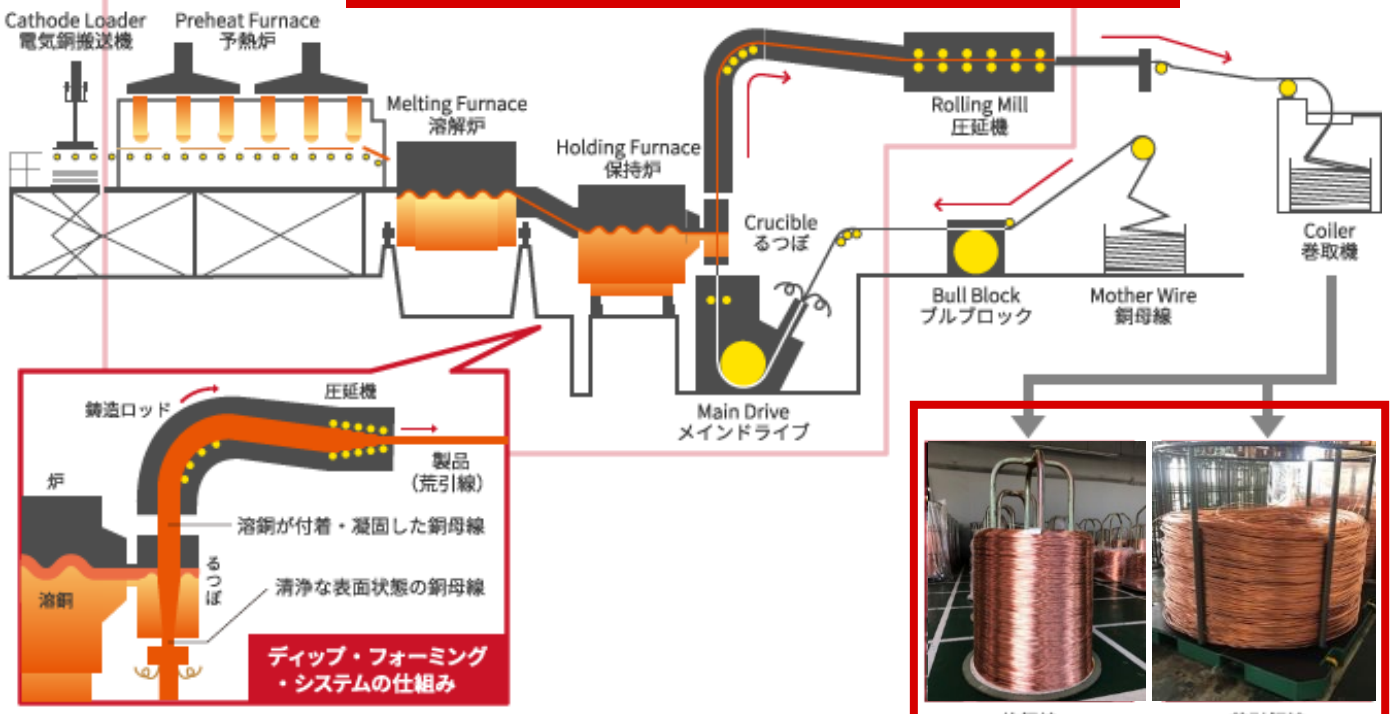
無酸素銅MiDIP®の増産への取り組み

無酸素銅の特徴は酸素量の低さ
しかし、**連続的な酸素量の測定**は困難

酸素濃度を連続的に把握する技術を開発
(世界初)
2020年9月2日　プレスリリース

流動溶融銅中に含まれる極微量酸素の
長時間連続測定が可能に

ディップ・フォーミング・システム



無酸素銅MiDIP®のさらなる安定生産と供給量増加へ

海外事業の新展開

サプライチェーンの分散・生産拠点の多元化
地産地消の推進

①精密デバイス

2022年3月工場売却

昭和電線CS
海老名工場

→ 生産移転 → **SWCC SHOWA（VIETNAM）**

↓ 研究開発移転　**投資 4億円**

昭和電線CS
相模原事業所

②ワイヤハーネス

2020年9月解散

ダイジ

→ 2020年9月 製造・開発移転 → **嘉興昭和機電**

投資 16億円

↓ 2020年4月 国内販売業務

SDS

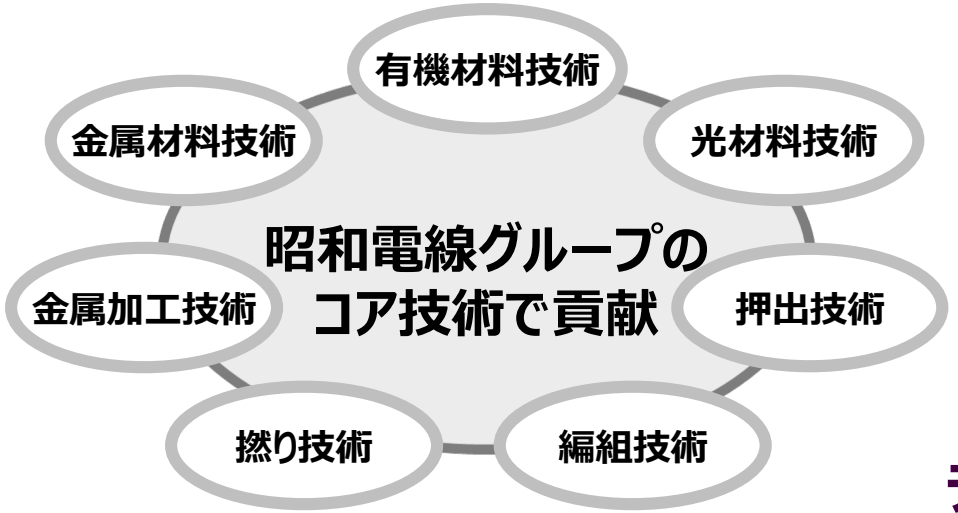
2021年12月新工場稼働
事業拡大を推進
2022年度売上高**100億円**

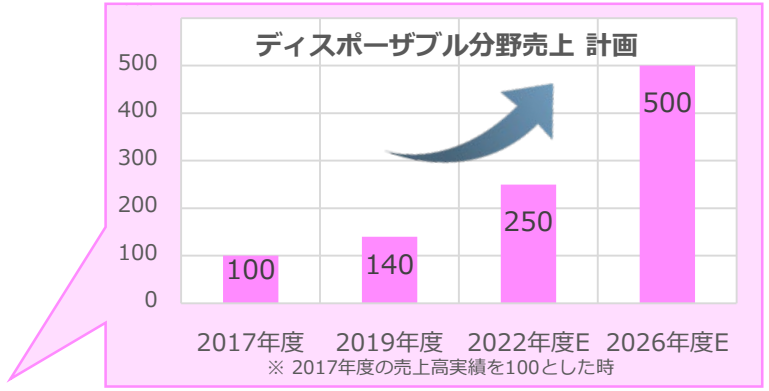
③新規事業(モビリティ、医療)

MADE IN JAPAN製品として欧米、中国向けに販売(拡販)

SWCC GROUP Creating for the Future

新規事業への取り組み（ヘルスケア分野）





医療機器分野

ロボット

画像診断装置

病院インフラ分野

通信ネットワーク構築

電力インフラ整備

免震・防振

ディスポーザブル分野や
IT分野に注力

ディスポーザブル分野

カテーテル

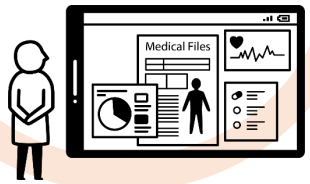
内視鏡

医療IT分野

医用映像システム

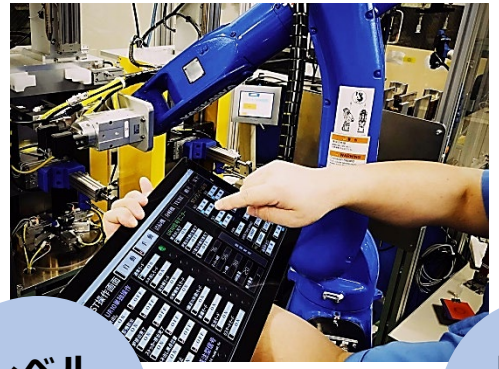
認証ネットワーク

電子カルテシステム



SWCC GROUP Creating for the Future

AI、IoT、TOC（制約理論）を融合したスマートファクトリーの構築



ロボット導入による省人化

2020年7月(@**海老名工場**)
精密デバイス製造工場の一部で無人化実現

無人自動製造ライン
究極の最終形を目指す

レベル 1 ● ● ● ● ● ● レベル 2 ● ● ● ● ● ● レベル 3 ● ● ● ● ● ● レベル 4 ● ● ● ● ● ● レベル 5

デジタル化

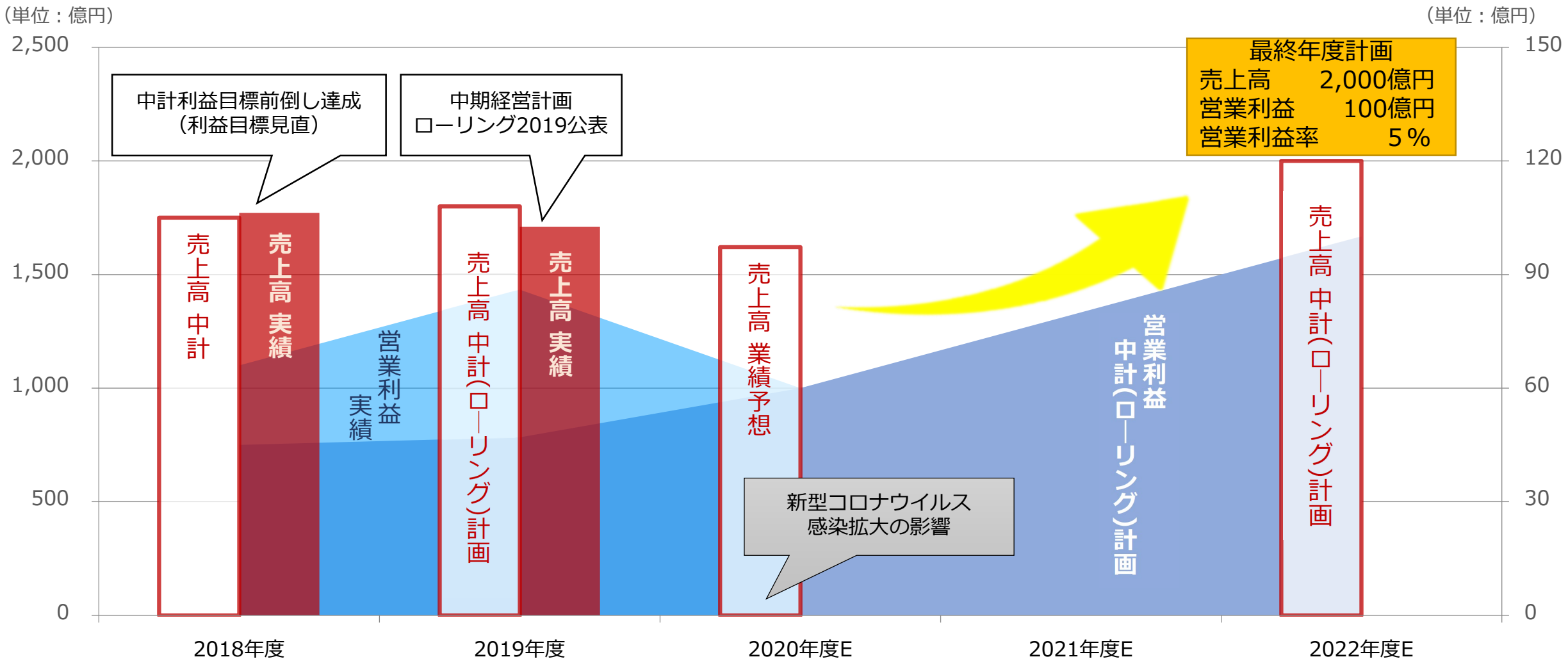
2020年4月(@**茨城工場**)
受注から配送までのデジタルデータ一元管理

ネットワーク化

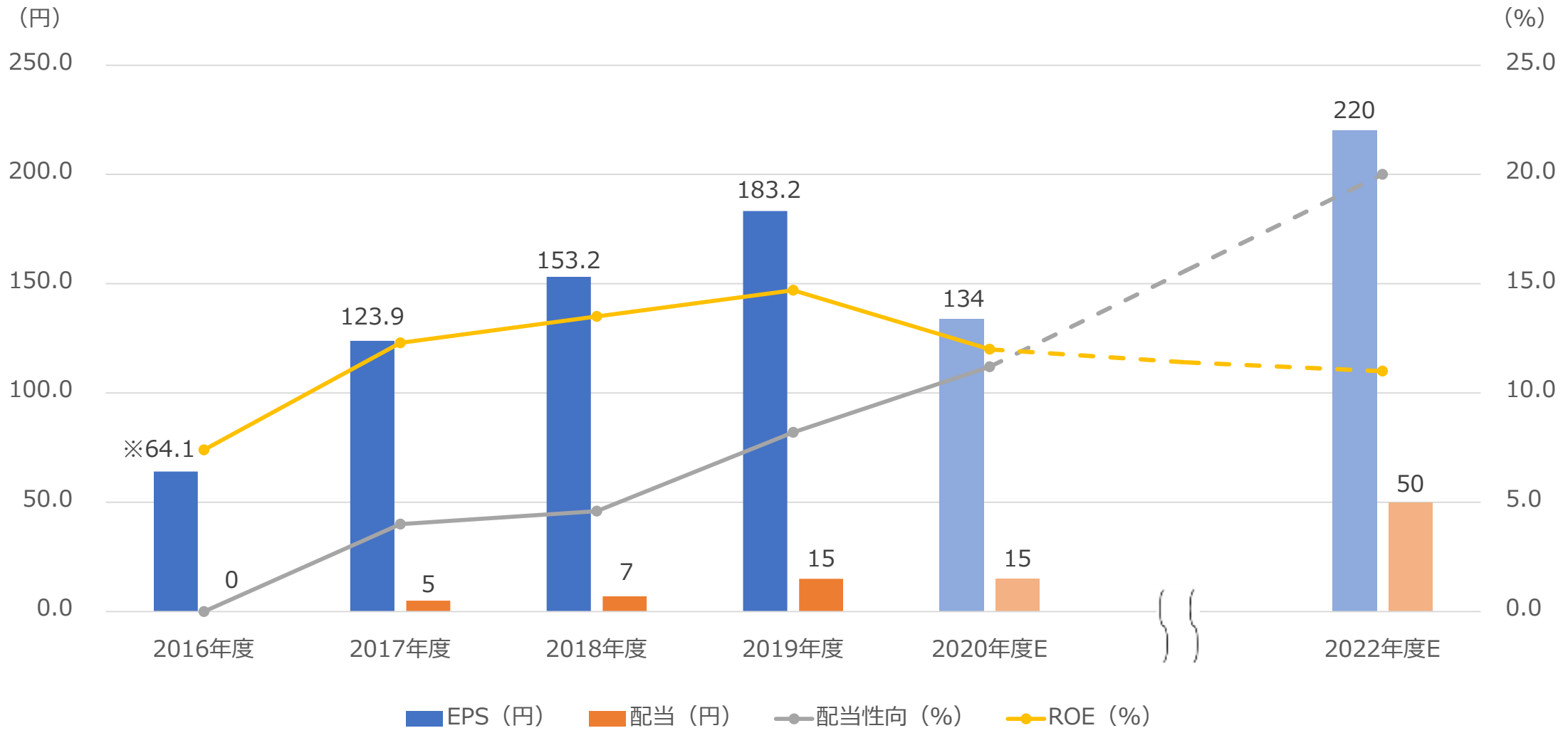
クラウド化

全社へ展開するための次世代を担う人財育成
さまざまな改革推進プロジェクトがグループ各社に広がりを見せている

中期経営計画「Change SWCC2022」業績



株主還元（配当政策）＆ROE 計画



※株式併合を実施しており、グラフは併合後の数値で作成。

SWCC GROUP Creating for the Future

中期経営計画　数値目標（KPI）

（単位：億円）

	2019年度 実績	2020年度 計画	2022年度 中期経営計画	VISION 2026
売上高	1,711	1,620	2,000	2,100
営業利益	86	60	100	150
経常利益	79	55	95	150
親会社株主に帰属する 当期純利益	55	40	66	100
営業利益率	5.0%	3.7%	5%以上	7%以上
配当/配当性向	15円 （8.2%）	15円 （11.2%）	50円以上 （約20%）	120円以上 （約35%）
有利子負債	423	385	380以下	300以下
DEレシオ※	107%	90%	70%以下	40%以下
純資産	400	435	550以上	800以上
自己資本比率	32.3%	35%	38%以上	50%以上
ROE	14.7%	9.7%	10%以上	10%以上
ROIC	7.3%	5.1%	7%以上	9%以上

※DEレシオは自己資本で算出

VISION2026に向けてのマイルストーン

2018年

- ガバナンス改革、構造改革
- セグメント体制変更
- 基盤事業改革方針検討
- 拠点再配置基本施策検討
- ESG長期方針策定

2020年

Withコロナ時代
米中対立激化

- 基盤事業改革実施
- 拠点再配置実施
- スマート工場への挑戦
- 電装･コンポーネンツ事業　事業計画再検討
- 海外事業拡大
- 再生事業改革方針決定

2022年

【中計目標】
財務体質強化
売上高 2,000億円
営業利益率 5%

- 電装･コンポーネンツ事業 本格再生
- 海外収益拡大
- 再生事業改革実施、事業拡大

2026年

【VISION2026】
事業ポートフォリオ変更
売上高 2,100億円
営業利益率 7%

VISION2026 & 目指す市場別売上構成

VISION2026

MISSION
信頼される製品・サービスで社会を支え、人々の暮らしに貢献する

VISION
グループ力で付加価値を創造し、成長する企業体へ

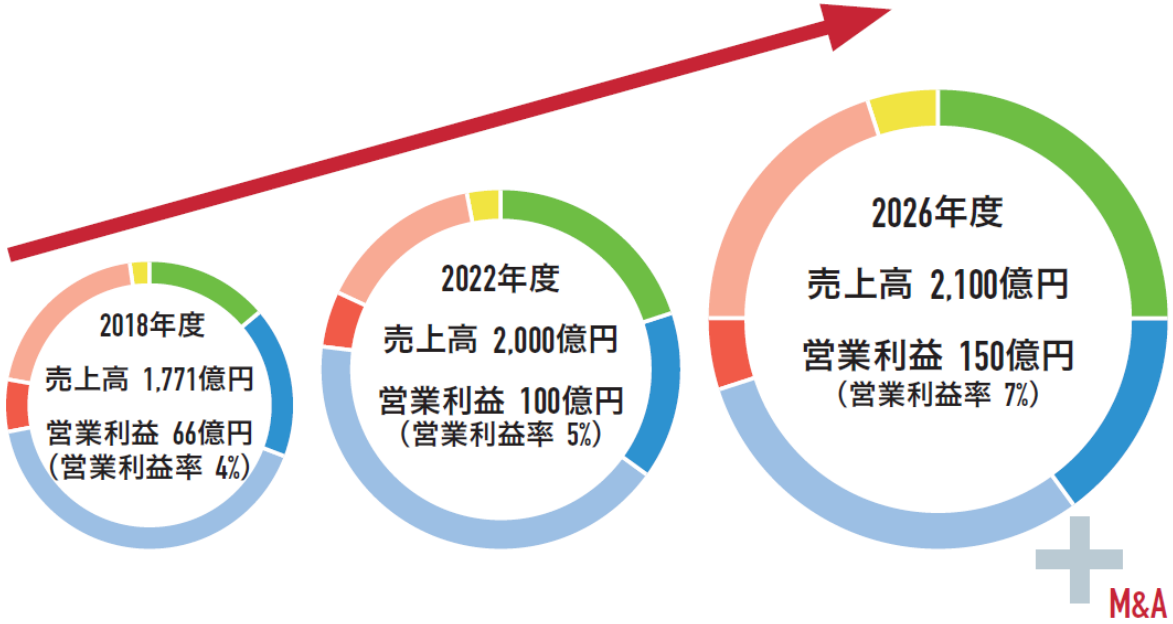
VALUE
「迅速」「情熱」「考動」によってお客様のニーズを掘り起こす

Change SWCC2022

- エネルギー・インフラ事業
- 通信・産業用デバイス事業
- 電装・コンポーネンツ事業
- ＋ 新規事業

コア技術重点強化 | 人材活躍推進 | ITを活用した生産革新

■ 目指す市場別売上構成



	2018年度	2022年度	2026年度
自動車	14%	20%	25%
電力	17%	15%	15%
建設	41%	42%	30%
通信	6%	5%	5%
産業機器	20%	15%	20%
新規事業	2%	3%	5%

本説明資料に記載されている将来の業績予測値は、公表時点で入手可能な情報に基づいており、潜在的なリスクや不確定要素を含んでおります。

このため、実際の業績は、さまざまな要素により、記載された予測値と大きく異なる結果となり得ることをご承知おき下さい。

実際の業績に影響を与えうる要素としては、経済情勢、需要動向、原材料価格・為替の変動などが含まれます。なお、業績等に影響を与えうる要素は、これらに限定されるものではありません。

Creating for the Future

昭和電線ホールディングス（株）
（東証1部：5805）

お問合せ先

昭和電線ホールディングス（株）
事業戦略統括本部経営企画部
TEL：044-223-0520
E-mail：kouho@hd.swcc.co.jp

https://www.swcc.co.jp